



メールマガジン版 音楽の世界

第 8 号 日本音楽舞踊会議 (CMD) 2005 年 3 月 27 日 (日) 発行

The COMMITTEE of MUSIC and DANCE JAPAN

〒 169--0075 新宿区高田馬場 4-1-6 寿美ビル 305 号

TEL:03-3369-7496 FAX:03-3369-6870

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/> E-mail: onbukai@mua.biglobe.ne.jp

メールマガジンの発行にあたって 事務局長：中島洋一

この度、メール・マガジン版『音楽の世界』を発行することとなりました。

こメール・マガジン発行の目的は、日本音楽舞踊会議とい団体およびその活動内容を紹介すること、そして機関誌『音楽の世界(活字版)』の内容を紹介することが、主な目的ですが、それだけではなく、読者に自由に投稿してもらい、それを分け隔てなく読んでいただく雑誌として発展させていきたいと考えています。

もちろん、この雑誌は申し込めば、どなたでも自由に購読出来ますし、購読の打ち切りも自由です。

発行回数など今後のことはまだ未定ですが、活字版『音楽の世界』の月刊に対して、このメルマガ版『音楽の世界』の発行は不定期とし、大体年に 4 回程度の発行をめざしたいと思います。文書の形式については画像などを簡単に取り込める長所がある HTML 形式も検討しましたが、文書サイズ、汎用性の両面を考え、テキスト形式でスタートすることにしました。

また、このメルマガは日本音楽舞踊会議関係者だけではなく、読者のみなさんと一緒に発展させて行く雑誌にして行きたいと考えておりますので、みなさま方のご協力をよろしく、お願い致します。

メールの宛先：中島洋一 yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp

メールマガジン版 『音楽の世界』 第 8 号 内容

第 8 号は『Fresh Concert -CMD2005- ~より豊かな音楽も未来をめざして』のための特集号とし、分量的には通常の半分以下に納めました。

- 1) ごあいさつ
- 2) 当日の演奏曲目
- 3) "Fresh concert -CMD2005-" 出演者の言葉
- 4) 座談会 ("Fresh concert -CMD2005-" から

5) "Fresh concert -CMD2005-"のご案内

6) 会と会員のコンサート日程表(3~4月)

1) ごあいさつ

"Fresh Concert"- CMD 2005 -

~より豊かな音楽の未来をめざして~

2005年3月30日(水) 18:30 開演

めぐろパーシモンホール 小ホール

主催: 日本音楽舞踊会議 / 後援: 月刊『音楽の世界』

《ごあいさつ》

やや回復の兆しが見えて来たかと思うと、また回復の足取りが重くなるというような状況をくりかえし、この10年余り、我が国の経済活動は依然として低迷状態にあります。音楽界もその影響を受け、特に音楽的に成長途上にある若い人達にとって音楽活動を継続することが、かなり困難になって来ております。そういう中で、才能、可能性を秘めながらも、音大などを卒業した後、経済的な理由等でステージから遠ざかり、折角の才能を開花させることなく終わってしまう若い音楽家達が多く見受けられますが、そのような時代だからこそ、若い人達に無理なくステージに立てるような場を提供し、若い才能を発掘、育成することも、長い歴史を持つ音楽文化団体としての本会が果たすべき社会的、文化的使命の一つと考え、一昨年 Fresh-concert コンサートを企画し、今回で3回目を迎えます。

今年は10人の参加者がありましたが、ピアノ、声楽の参加者だけでなく、オンド・マルトノという大変珍しい楽器の分野からも参加がありました。また、出演者の中には才能に恵まれた方々も多く、全員がこのコンサートを目指して研鑽に励んでまいりましたので、新鮮な熱気に溢れたコンサートになるものと期待しております。いま巢立とうとしている若い音楽家達に対して、皆様方の惜しみない御支援とご声援をお願いするとともに、これからの彼らの活躍を暖かく見守り続けていただきたいと存じます。

日本音楽舞踊会議

代表委員 助川敏弥、深沢亮子

事務局長

中島洋一

公演企画部長 北條直彦

2) 当日の演奏曲目

《プログラム》

秋山 有子(ピアノ)

ベートーヴェン ピアノソナタ op.81-a "告別"

谷坂 仁美(ピアノ)

ラフマニノフのプレリュード Op23 2、23 4、23 5、32 5

高橋 絵理(ソプラノ) ピアノ伴奏 山下珠実

ロッシーニ 「ウイリアム・テル」

~彼らはとうとう行ってしまった!

- 暗い森、荒れ果てた悲しい野よ~

加藤 みちる (ピアノ)

ラフマニノフ コレルリの主題による変奏曲 op.42

高原 史乃 (ソプラノ) ピアノ伴奏 山下珠実

ロッシーニ 古風なアリエッタ

ヴェルディ 歌劇「海賊」より ~まだ彼は帰ってこない!

...私の頭から暗い考えを~

----- 休憩 -----

久保 智美 (オンド・マルトノ)

ロラン クルーズ オンド・マルトノ ソロの為の "アルス..."

(日本初演)

朴 成姚 (ピアノ)

ベートーヴェン 15の変奏曲とフーガ (エロイカ変奏曲)

折田 いづみ (メゾ・ソプラノ) ピアノ伴奏 山下珠実

ビゼー・歌劇「カルメン」より『セギディーリャ』

サン＝サーンス 歌劇「サムソンとデリラ」より

『愛の神よ、弱い私を助けて!』

富田 紀子 (ピアノ)

C.ドビュッシー: 前奏曲第2集より

1 1. 交代する3度 1 2. 花火

佐藤 大介 (ピアノ)

R.シューマン 幻想曲八長調 作品17より第1楽章

司会: 西山 淑子

3) "Fresh concert -CMD2004-" 出演者の言葉

《秋山 有子 (あきやま・ありこ) / ピアノ》

このたびはフレッシュコンサートに出演させていただくことになり、大変うれしく思っております。今回演奏する、ベートーヴェンのピアノソナタ第26番 告別 は、掘り下げて追求していても底がないのではないかという位、深い深い曲です。私がどこまで“掘れて”いるのか疑問ではありますが、コンサートでは今の私における最高の演奏をお聴かせできればと思っております。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《谷坂 仁美 (たにさか・ひとみ) / ピアノ》

このたびフレッシュコンサートに出演する機会を与您いただきまして、どうもありがとうございます。

ラフマニノフは、異なる24の調性による24曲のプレリュードを書いています。今回はその中から4曲を演奏いたしますが、ラフマニノフ独特のロマンティズムをそれぞれの曲で表現できればと思っております。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《高橋 絵理 (たかはし・えり) / ソプラノ》

今回、歌劇「ウィリアム・テル」の王女マティルデのアリア“ 暗い森、荒れ果てた悲しい野よ ”を歌わせて頂きます。このオペラは、弓矢の名手ウィリアム・テルが息子の頭上のリンゴを射抜くというシーンで有名なシラーの同名の戯曲をロッシーニがオペラ化した雄大なオペラです。オリジナルはフランス語ですが、今回はイタリア語で歌います。このハプスブルク家の王女マティルデのアリアは、敵であるテルの息子アルノルドに恋をして歌われる曲です。マティルデの切ない想いを表現できたらと思います。

私にとって、大学院を卒業して最初の演奏会となります。このような機会を与えて下さった中島先生には、大変感謝しております。精一杯歌いますので、楽しんで頂けたらと思います。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《高原 史乃(たかはら・しの) / ソプラノ》

この度フレッシュコンサートに出演させて頂くことが出来、大変嬉しく思っております。

学生の時とは違い、これから社会に出て音楽を勉強し、演奏を続けていくこと自体難しくなっていくのだと思いますが、いつでも自分らしさや音楽に触れる喜びを忘れず、演奏を続けていきたいと思っております。今回の演奏会は第一歩と思っております。

今回は歌曲とオペラのアリアを一曲ずつ選ばせて頂いたのですが、歌曲とオペラというそれぞれまた違う魅力をひきだせる演奏ができたらと思っております。宜しくお願い致します。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《久保 智美(くぼ・ともみ) / オンド・マルトノ》

このコンサートに出演させて頂けることになり、私はあえてオンド・マルトノ独奏の為に書かれた作品を選ばせて頂きました。なぜなら、日本ではまだまだ知られていないフランスの電子楽器「オンド・マルトノ」の魅力、そして「現代曲」と枠組みされ、敬遠されがちな昨今の作品を知って頂きたいと思ったからです。いわゆる「現代曲」といわれる作品に触れる時(オンド・マルトノは20世紀初めに生まれた楽器。オネゲル、ミヨー、メシアンなど20世紀を代表するフランスの作曲家達もこの楽器の為に作品を残している。)

「何故ここにたどり着いたのか」ということを考え、私たちが生きる現代までの歴史を振り返ります。「現代曲」というのは決して身を構えて聴くものではなく、むしろ私たちに一番近い感覚を持っているものだと思います。今を生きる私達にしかできない、今の時代に生まれる作品に、オンド・マルトノという楽器と共にこれからも挑戦していきたいと思っております。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《朴 成姚(パク・ソン・ヨ) / ピアノ》

この度は、ONBUKAI 主催の下でフレッシュコンサートに出演できることを大変嬉しく思います。今回私が演奏致しますベートーヴェンの《エロイカ(英雄)変奏曲》は、彼が31歳の時に作曲された作品であります。この頃彼は耳疾に悩まされ、ハイリゲンシュタットの村を訪れ、そこで弟にあてた書き置き「ハイリゲンシュタットの遺書」を残し、自殺を思いとどまったことを告げています。このように失意のどん底に突き落とされる彼でしたが、この曲からはそんな彼の苦悩はまったく感じられません。時には繊細な部分もありながら、全体としてベートーヴェンらしい力強い曲となっています。彼は作曲に打ち込むことで、この絶望から素早く立ち直ることができたのでしょう。この後も《ヴァルトシュタイン・ソナタ》や《熱情・ソナタ》などの大作を次々と残しています。今回は、このように強い精神力のもとで作曲された、《エロイカ変奏曲》を私なりに解釈した私のベートーヴェン像として、みなさんに伝えられたらと思います。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《折田いづみ（おりた・いづみ）/メゾ・ソプラノ》

徹底的にソプラノが主役のイタリアオペラ（もちろん例外もありますが）とは対照的に、フランスオペラにはメゾ・ソプラノを主役に据えた作品が多いようです。

これはきっと、フランス人がメゾ・ソプラノを自分たちの言語を歌うのに理想の声域・音色であると考えていたからに違いありません。ビゼーの『カルメン』もサン＝サーンスの『サムソンとデリラ』も、タイトルロールはお姫様や薄幸の美女といったいわゆる"ヒロイン"とは一味も二味も違った、悪女、ファム・ファタル（運命の女）の役柄です。この魅力的なキャラクターたちを、それぞれのアリアの中でどう表現するかが今回の私の課題だと思っています。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《富田 紀子（とみた・のりこ）/ピアノ》

はじめに、中島洋一先生をはじめ、日本音楽舞踊会議の先生方へ「フレッシュコンサート CMD2005」出演という素晴らしいチャンスを与えてくださったことに、心より感謝申し上げます。

卒業後、友人や先輩方のお力を借りながら地方で演奏活動という修行を続けておりますが、やればやるほど自分の力不足を突き付けられる毎日です。将来バタンと倒れるその日まで、生涯のプライオリティとして精一杯頑張っけてゆきたいと考えています。

さて、今回演奏するC. DEBUSSYは、私の最も敬愛する作曲家のひとりです。彼の音楽を描けば描くほど、彼の観ている情景がフィルムとなって蘇る印象を受けます。特に「交代する三度」「花火」を含む「前奏曲集」は、風、月の光、水面、教会の鐘の音など・・・自然のなかで振動するすべての美が修められています。

当日、同じ空間というキャンパスを通して、聴きにいらしてくださった皆様と一緒に、新たな画を描けたら、幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

+ + *+ +* *+ +* *+ +* +* *+ +*

《佐藤 大介（さとう・だいすけ）/ピアノ》

この度、声楽家の渡辺裕子先生からご紹介頂き、フレッシュコンサートに出演させて頂く事になりました。大変貴重な機会を与えて頂きまして、心より感謝致しております。私の演奏する曲は、現在最も意欲的に勉強しておりますシューマンの若い頃の作品です。

悩み多き時期のシューマンのとても情熱的な曲ですので、とても表現が難しいですが、学生の頃からとても憧れていた曲で、フレッシュコンサートで演奏できることをとても楽しみにしております。

4) 座談会 ("Fresh concert -CMD2005-" から

この記事は『音楽の世界』2005年3月号に掲載されたものです。

座談会【Fresh Concert - CMD2005 - 】 出演者が自分の音楽を語る

【出席者】

秋山 有子（あきやま・ありこ） ピアノ

小椋由加里（おぐら・ゆかり） ソプラノ

久保 智美（くぼ・ともみ） オンド・マルトノ

佐藤 大介（さとう・だいすけ） ピアノ

司会 : 中島洋一（日本音楽舞踊会議・事務局長 作曲家）

2005年2月6日 日本音楽舞踊会議 事務所にて

演奏する作品について

司会：お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は『Fresh Concert -CMD2005-』の出演者の方々に、ご自分の音楽について語っていただきます。まず、小椋由香里さんから、小椋さんはモーツァルトのコンサートアリア"行こう、でも、どこへ？"と、『カヴァレリア・ルスティカーナ』の有名なアリア"ママも知るとおり"を歌われますね。まず、その2曲を選曲した理由と、その作品に対するあなたの思い出、そして、どのように演奏したいかを、お話しください。

小椋：私は、モーツァルトは学生の時、試験で歌った程度で、あまり触れたことがなく、ロマン派のオペラのようなドラマチックなものが好きなのですが、今回は改めて古典的なものを見直してみようということで、モーツァルトを選び、併せて、自分がもともと好きなドラマチックな作品の中から、もう一曲選びました。

司会：モーツァルトには、オペラも沢山ありますが、お歌いにならないわけですか。

小椋：はい、あまり歌いません。

司会：ロマン派のオペラには、ドイツオペラもありますけど、どうですか。

小椋：いえ、私は主にイタリアものを歌っています。

司会：今回はマスカーニを歌われますが、ヴェルディなども

小椋：はい！

司会：ちょっと前の、例えばドニゼッティなどはどうですか？

小椋：はい、ああいうコロコロしたソプラノのものは、自分にはどうかなと思うので、聴きはしますけど、あまり歌いません。

司会：やはり好きなのはヴェルディ、プッチーニなどですか？

小椋：はい！

司会：言葉で語るのが難しいと思いますが、どのような演奏をしたいですか？

小椋：自分でこれだけ表現しているのにと考えていても、聴衆に伝わっていなかったりするので、独りよがりにならないように、一生懸命練習してやって行こうと思います。

司会：次は秋山有子さんですね。貴女は、今回は『告別』を選曲されましたが、ベートーヴェンの作品はよくお弾きになりますか？

秋山：いま、ピアノを習っている北川暁子先生が、ベートーヴェンの連続演奏会をおやりになりましたが、それをずっと聴いていて、..それと、大学の試験の課題曲がベートーヴェンのソナタだったので、先生の演奏を聴いていて自分でやってみたいなあと思ったのが『告別』でした。

司会：ベートーヴェンのソナタの中でも、『熱情』とか『ハンマークラヴィーア』などのように『告別』とは傾向の違う名作がありますが、そういう作品はどうですか？

秋山：そういう作品はベートーヴェンらしい作品といわれていますが、私は、より歌う要素の多い曲を弾きたいと思っています。

司会：なるほど。私も、晩年の深みのある作品が好きですが、特に変イ長調の作品110、などが好きで、たまに、ピアノに向かうことがあるんですけど...

『告別』書いた頃のベートーヴェンと、いまの貴女では年が大分離れていますけど、演奏するに当たって、どういうことに気をつけたいですか？

秋山：それを書いた頃のベートーヴェンと、いまの私では年がかなり違いますが、たとえ年が違わ

なくても、精神年齢では作曲者の方がずっと高いと思いますので、なかなか追いつけないところがあると思いますけど、いまの私が汲み取れる限りのものを汲み取り、いまの私が表せる根一杯のところまで出したいと思います。

司会：とくに、どういうところに注意を払いたいで。

秋山：ベート・ヴェンはどの曲もそうなんですけど、気が抜けないんですね。特に、静かなところほど、集中力が必要だと思います。ですから集中力が途切れないように、演奏したいと思います。

司会：そうですね。静かなところには、深い想いと、多くの音の情報がこめられていますね。ですから、特に、弱奏の部分を大切にしたいという、想いがあるわけですね。

司会：では、佐藤大介君に行きましょう。貴方はシューマンの幻想曲の第一楽章をお弾きになりますね。第一楽章は15分弱で演奏出来るので、演奏時間の面からも、このコンサートにぴったり合うわけですが、どういう気持ちで、この曲を選びましたか？

佐藤：実は、シューマンの曲を弾くのは今回がはじめてなんです。キッカケは、自分の先生に勧められたことですが、自分でも以前から憧れの曲だったので選びました。この曲の魅力は情熱的で、感情の起伏が激しく、そういうところを魅力的に表現出来ればと思い、練習しております、

司会：今回は一楽章しか弾くことが出来ないわけなんですけど、ほんとう全曲弾きたいんでしょうね。ところで、シューマン以外には、どんな作曲家の曲が弾きたいですか。

佐藤：ショパンです。

司会：ショパンとシューマンとでは音楽がかなり違うわけなんですけど、どちらが好きですか？

佐藤：いまは、むしろシューマンの方が好きですね。

司会：シューマンの場合は内声とかに気を使わないとね。もちろんショパンは音色的に、とても綺麗に響くように書いていますが。

司会：この作品は、ピアノの名品を沢山書いた、若い頃の作品ですが、みずみずしさを感じますね。

佐藤：この作品は、シューマンがクララと会えなかった時期に書いたもので、欲求不満というか、悩ましさを感じられるように思います。

司会：なるほどね。シューマンで、他に弾きたいものがありますか？

佐藤：今は、幻想小曲集を弾いています。作品番号は幻想曲よりちょっと若いんですが、時期的には、ほぼ同じで、同じような心境で書かれているところもあるのではないかと思います。小曲なので、一曲一曲に込められた表現がはっきりしているし、幻想曲の方と、表現の仕方がつながるところがあるのではないかと思います、弾いています。

司会：幻想小曲集も、和音の響きが美しいですよ。では、次に久保智美さんを紹介しますが、その前に、久保さんがお弾きになる、大変珍しいオンド・マルトノという楽器について紹介します。この楽器は、フランスのマルトノという人が1928年に開発したもので、普通のスピーカーの他、弦、シンバルのついたスピーカーがあり、アコースティック楽器の要素を含む最初期の電子楽器です。音程を作り出す手段としては、普通の鍵盤の他に、リボンもあり、ポルタメントや、グリッサンド奏法が自由自在に出来ます。フランスの現代作曲家、オネゲル、ジョリヴェ、メシアンなどが愛用した楽器です。この楽器を専門とする演奏家は、まだ日本では非常に少なく、貴重な存在です。では、その貴重な存在の一人である久保智美さんにお話をうかがいましょう。

実は久保さん、恥ずかしながら、私は作曲者の名前も曲名も知らなかったんですよ。では、まず演奏する曲について、お話下さい。

久保：今回演奏する曲は、オンド・マルトノのソロの曲なのですが、作曲者のロラン・クルーズという人は、フランスで一番オンドリストに近いところにいる人で、オンド・マルトノの曲を最も沢山書いている人です。今回弾く"アルス"という曲は、オンド・マルトノ奏者にとって、なかなか苦しい曲なんです。例えば、鍵盤を揺らすとビブラートをかけることが出来るんですが、それを多用したり、頻りに音色を切り替えたり、奏法面でもポルタメントを多用したり、音を出すために押さなければならないトゥッシュというものがあるんですけど、その押し方まで指示されているんです。

司会：普通、作曲家はマルトノの音色は知っていても、楽器について詳しいことは知らないの、奏法については大体奏者に任せることが多いですけど、

久保：ロラン・クルーズはマニアといっても過言がないほどで、彼自身は演奏家ではないんですが、あらゆる資料を集め、周りにいるオンドリストからの話も聞き、いままで書かれた、例えばトリスタンミライユという作曲家の作品分析をしたり、音色についても、すべて彼が指示して来るわけで

すね。その通り弾いてくれと。でも楽器をよく判っている方なので、演奏していて不都合なところは何もない、という曲を書く方です。

司会：それは、聴くのが楽しみでね。

音楽と生活、そして人生について

司会：今度はもう少し話題を広げて、将来、自分の音楽をどのように発展させて行くか、また、人間は糧を食べて生きて行くわけには行きませんので、生活して行かなければなりません。生活していきながら、自分の芸術をどう続けていくか、ある面では戦いであり、ある面では妥協かもしれないけど、例えば、我々の日本音楽舞踊会議の会員も、みんな生活と戦いながら音楽を続けている人達です。あなた方もすでにそういう問題と直面しているか、近い将来直面する訳ですけど。.. こういう話は気が重いですか？私の知っている舞踊家に旦那さんが会社の社長で、理解者であり、パトロンでもあり、そういう恵まれた条件の中で芸術活動を続けている人もいますが、普通は、なかなかそうは行かないでしょうね。

小椋：いま先生がおっしゃったみたいなの、素敵なお男の人に巡り合って、そういう道を歩めるなら、それに乗っかりたいと思いますけど、なかなかそうは行かないと思います。地に足をつけた生活をなさいと、母によく言われて、何かを始めるには遅い年令なのかなと思ったり、しかし、何かを諦めるにもまだ諦めきれないし、地道にマイペースでやって行こうと思います。大学の頃は、卒業したらどうしよう、就職しようか、このまま音楽を続けていこうかなどと考えましたが、なるようにしかならないし、今はレッスンに行く時間もありますし、先生も熱心にみて下さるし、そういう時間があるだけでも、ありがたいことだし、焦らずマイペースで続けられるといいと思います。

司会：ところで、あなた方が演奏する作品を書いた作曲家、例えば楽聖といわれているような人だって、生身の人間だったわけで、それぞれの人生があり、それぞれの生活上の戦いがあったのではないのでしょうか？例えば、ベートーヴェンが貴族嫌いになったのも、若い時に苦労したからではないですか？ですから、自分の人生上の問題、生活の問題などについても、目を逸らすのではなく、そういう事に対しても、真剣に悩み、考える姿勢を持つ方が、音楽的にも深まる可能性があるのではないかと思います。秋山さん、ところで自分が演奏している作曲家達は、こんな風に生き、こんな風な悩んでいたのではないかと、自分の生き方と重ねながら、想像してみることはありますか。

秋山：....

司会：大作曲家なんていうと雲の上の人のように思ってしまうがちだけど、芸術家なんて、大抵人間的には欠点だらけだし、まあ、軽薄ではないでしょうけどね。生活面でも、精神面でも、憤懣、悩みといったものをいっぱい抱え込んでいて、それと戦い続けていたんでしょ。

秋山：雲の上とは思いませんけど、自分とダブらせてみるということまでは....

司会：ベートーヴェンなんかだって、凄いフラストレーションや憤懣、悲哀というものがあって、それが激しく爆発したり、深く沈潜したりして.. しっかりした構成に支えられながらも、そういうものが強い感情表現となって音楽に現れてくるでしょう。それは、その人の生き様と重なっていませんか？そういうことは、あまり自分の生活と関係ないかな。

秋山：難しいですね。

司会：私は生活ですり減らすと芸術はだめになるけど、すり減らすことと戦わない人もダメだという気がするんですよ。

秋山：そういう葛藤があってこそその音楽という気がします。ベートーヴェンの場合は。

司会：ところで、あなた方の場合でも、頑張って音楽を続けるということは、かなりのリスクを覚悟しなければならぬかもしれないかもしれませんね。そういう苦労をあえて背負ってみようとか、.. まだ、そこまで踏ん切りはついていませんか？

秋山：そうですね。大学も卒業という風になると、芸術系ではない普通の勉強をした人だと、就職ということになったりして、じゃあ私が卒業してすぐに仕事出来るかということそうでもないわけで、そういう時に何をしているのだろう、と思うこともありますね。

司会：次にシューマンを弾く佐藤君。シューマンも幸せな時期もありましたけど、晩年はライン河に身を投げて自殺未遂までしますね。その頃、シューマンはクララとデュッセルドルフに住んでいた訳だけど、実はそのシューマンの家に、本会の賛助会員でピアニストの松永さんという方が、デ

ユッセルドルフ出身のチェリストの旦那さんとずっと住んでいるんですよ。壁のシミを見て、「これはもしかするとクララがつけたシミかもしれないなどと想像していると、不思議な気持ちにおそわれる」などという手記を寄せられています。

どうですか？シューマンの人生と貴方の人生はもちろん違うだろうけど、そういうことを比べて考えたりしたことはありますか。

佐藤：自分の人生と重ねては考えませんが、ただ、シューマンはどういうことを思って書いたのかとかいうことは、色々考えながらやっているつもりなんですけど。シューマンの場合はメロディーと絡んでくる左手の伴奏とかの動きの中に、感情的な葛藤があったりして、見えやすいかなという気がします。イメージを膨らませていくときりがなくなってくるという感じがして。

司会：そういう大好きな音楽なんですけど、それを続けて行くことに対して、どのようにお考えですか。

佐藤：もう卒業してから何年も経つんですけど、音大へ入る前から苦しいだろうということは予想が出来ていましたし、でも、音楽で何とか生活をして行きたいという気持ちはずっとあって、学生の頃もよく先生から10年は食べれないというような話を沢山聞いていたんで、10年は我慢しようと思ってはいたんですけど、実際に卒業して、生活をしながら練習をするという生活を続けてみて、やっぱり厳しいと思いましたし、一度辞めようと思ったことがありましたが、やめると体調が悪くしたり、いろいろ良からぬことが起るので、結局、生活とピアノを両立させる方法を模索し、今は大分落ちついては来たんですけど、やっぱり常に不安があって、このまま一生無事に過ごせるという保証はどこにもないし、あとは、自分の意志しかないかなと思っています。やっぱり、自分でも楽器の練習を疎かにしてしまうということは一番納得出来なくなってしまうことなので、そこは絶対に譲らないものとして持っていながら続けて行こうと思っています。

司会：演奏の場合が難しいのは、作曲なら、ある想いからしばらく作曲を休むというようなことがあっても、すぐ取り戻せるんですけど、演奏の場合は、しばらく休むと腕が鈍って、取り戻すのが大変になるということがありますね。継続性ということが求められるんで、そういう面でも大変ですね。でもまあ、そういう厳しさについても、自分の課題として受け入れられるようになって来たわけですね。

佐藤：それは覚悟が出来ています。

司会：次は久保さんですね。大変珍しい楽器をおやりになっているんですけど、今は生活と芸術という話題で話を進めていますが、なかなか言いにくい問題でもありますよね。

久保：実際問題、厳しいですし、オンド・マルトノを弾いて食べて行ける訳ではないし、コンサート前でも、他の仕事とのかねあいで、練習時間も学生時代の数分の1しかとれないし、いまは如何に練習時間を作っていくかを考えなくてはなりません。だから、学生時代を思うと、なんと無駄な時間を過ごしてしまったな、と今になって思いますが、そういう中でもやって行くのがプロだと思うし、だから、しばらくは頑張ろうと思っています。

司会：学生時代を無駄に過ごしたとおっしゃいましたが、私もそうだったけど、無駄というの、ある程度必要なのかもしれません。専門には関係ないことで時間を使ったりして、それが出来る時期だったのでしょね。ある意味では贅沢な時だったということになるんでしょね。

まあ、みなさん、何とかして音楽を続けて行こうという事ですね。あんまり悲壮感があっても行けないけど...この、コンサートの企画の底には、若い音楽家達が、このコンサートに出演することで、それを足場として、自分の音楽を飛躍させ、音楽を続ける勇気をさらに強く持ってほしい、という我々の願いがあるのです。

では、この辺で、もう少し楽しい話をしましょうか。では久保さん。

将来の夢

久保：とにかく、日本では、オンド・マルトノという楽器自体が知られていないので、楽器を色々な世代の活躍している方々に紹介したいですし、それにコンテンポラリー作品は敬遠されがちなんですけど、今生きている私たちと一番近い感覚の作品だと思うので、どんどん発表して行く機会を持ちたいと思います。

司会：次は佐藤君

佐藤：簡単に言えば、この先ずっと腕は磨きたいということですね。形として夢という。それほどのものはないんですけど、自分が生活の中で楽器に触れる時間を出来る限り多くとりたいですね。
司会：具体的にこういうことをやってみたいということはありますか、例えばシューマンならコンチェルトを弾いてみたいとか。

佐藤：そういうことをいったらきりがありませんね。(笑い)やる機会があれば、なんでもやってみたいです。

司会：オーケストラ伴奏だとなかなか機会がないかもしれないけど、エレクトーンの伴奏なら機会をつくるのはそう難しくないでしょうし、それでもやってみれば、色々勉強になることが多いと思いますので、挑戦してみた方がいいですね。シューマンをより深く理解するためにも。

佐藤：はい

司会：では、秋山さんはどうですか。

他の楽器と比べて、ピアノをやっている人はすごく多いし、そういう中で専門にやっているということに大事にしたいと思います。で、ソロも勿論なんですけど、アンサンブルとか、機会があればオーケストラと一緒にやるとか、色んなことをやってみたいです。

司会：私はピアノなんか全然弾けないんですけど、でも歌の伴奏なんかが好きですよ。

秋山：ピアノ以外の人と一緒にやったりしていると、逆にソロが判ったりしてきます。

司会：伴奏って、歌い手の呼吸とか、テンポ感が掴めないとか巧いかないですね。どんなにピアノが弾けてもね。聴いていて伴奏が下手で歌い手が気の毒だなあと思うことが、よくありますからね。次は歌う立場にある小椋さんどうぞ。

小椋：佐藤君が言ったように、具体的に言い出したらきりがありません。今までも歌があっただけ良かった、歌があったから乗り切れたのかな、と思うようなこともあったので、これからは、嫌なことや辛いことがあっても、音楽が支えてくれたんだなと思えるように、ずっと自分のそばにあるもので、いて欲しいと思います。

司会：それはあなたの心の持ち方次第で、音楽はずっと傍らにいてくれるでしょうね。

色々な意見が出ましたが、とにかく自分が本当に音楽を愛し、続けて行きたいと思ってること。そうすれば、ある程度、夢はかなうんじゃないかな。大きな夢でなくてもよいから、それを忘れないようにすることが大事だな、と皆さんは思っているんじゃないですか。そして、その歩みの中の、一つの通過点として今度のコンサートがあるのかもしれない。でも、通過点といえども全力投球して欲しいし、みなさんがそういう気持ちだと思います。コンサート当日まで、もう二ヶ月を切っています。じゃあ、みなさん頑張りましょう。そして、コンサートの当日、ステージで、そして最後の打ち上げの席で。またお会いしましょう。その時は、今日、やもえぬ事情で欠席した他の参加者の方々も顔を揃えると思います。では、コンサートでは、お互いに頑張るということを確認して、このへんで締めたいと思います。

2005年2月6日 午後1時30分～3時

日本音楽舞踊会議事務所にて収録

座談会の出席者のうち、ソプラノの小椋由香里さんは、事情により、出演を辞退されました。

5) "Fresh concert -CMD2004-"のご案内

本会のホームページの掲載内容とリンクさせます。

1) "Fresh concert -CMD2005-"のトップページ

<http://www.5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/concert/Fresh2005info.htm>

2) 出演者紹介(クリック)

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/concert/Fresh05-A.htm>

3)コンサートのチラシ(クリック)

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con-fr05.htm>

4)座談会速報!(クリック)

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kikanshi/zadankai0502.htm>

5)出演者のメッセージ(クリック)

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/concert/Fresh05-message.htm>

6)会場紹介

<http://www.persimmon.or.jp/>

7)昨年度開催の"Fresh concert -CMD2004-"のページ

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/concert/Fresh2004info.htm>

8)一昨年度開催の"Fresh concert -CMD2003-"のページ

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/concert/Fresh2003info.htm>

6)会と会員のコンサート日程表(4~6月)

3月】

6日(日) 深沢亮子 コンサート 15:00 ~ 榊ホール

23日(水) オーラJ第15回定期演奏会 《竹の共楽》 西耕一
プロデュース ルーテル市ヶ谷センター 19:00 ~
自由席 3500円 新・友の会 2500円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con17.htm>

26日(土) ガンの子供を守る会のチャリティーコンサート

出演: 深沢亮子、天満敦子 14:00 ~ すみだトリフォニーホール

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con32.htm>

金子みずゞコンサート 作曲・エレクトーン 西山淑子他
沖ミュージックサロン 14:00 ~ 3000円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con48.htm>

30日(水) 『"Fresh Concert" -CMD 2005- ~より豊かな音楽の未来をめざして~』 めぐるパ
ーシモンホール 18:30 ~

【4月】

8日(木) オーボウヴュタントリオ・コンサート 演奏曲目: 助川敏弥 "Vesessa" (委嘱)

作品)他

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con28.htm>

11日(月) プリマヴェーラ コンサート 出演:岡部由美子(p)他 横浜みなとみらいホール小ホール 19:00 ~

全自由席:3000円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con03.htm>

11日(月) 安田弦楽四重奏団演奏会 ~白尾隆とともに~ 東京文化会館小ホール 19:00 ~

全席自由 一般4000円、学生2000円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con27.htm>

15日(金) 米持隆之ピアノリサイタル 「ソナタの夕べ」
三鷹市芸術文化センター 風のホール 19:00 ~

全席自由:3500円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con49.htm>

【5月】

19日(木) 深沢亮子ピアノリサイタル 演奏曲目:助川作品他 東京オペラシティコンサートホール 19:00 ~

全自由席 5000円

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/kai-info/con18.htm>

メールマガジン版 『音楽の世界』原稿募集

今回のメールマガジンは、「Fresh Concert」特集ということで、他の記事は掲載しませんでした、本年8月下旬~9月初旬に、メールマガジン版『音楽の世界』第9号を発行する予定です。

つきましては、読者に方々の投稿をお願いします。

投稿原稿については、特に支障が無いかぎり掲載いたします。

2005年3月27日 文責:中島洋一

メールの宛先:中島洋一 yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp

メールマガジン版『音楽の世界』2005年3月号(第8号)

(完)
